



0566-21-0211

京極歯科院長の久田和明（ひさだかずあき）です。

今回の76号では「フッ素」についてです。どうぞご家族の皆様でご覧ください。



医院のお花



薬局やドラッグストアなどで販売されている歯磨き剤の9割以上に【**フッ素（フッ化物）**】が含まれております。

フッ素は歯にとって有効な成分と科学的に認められ、普及したことで実際に国民の口腔内も改善しました。

現在様々なフッ素（フッ化物）が世界120カ国で応用されWHO（世界保健機関）やFDI（国際歯科連盟）も利用を推奨しています。

フッ素（F）は合成されたものではなく自然界に分布している元素です。水・海産物・野菜・果物・お茶などほとんどの食品に微量ながら含まれています。

私たちの体内の消化管で歯・骨・血液中や軟組織にも存在しています。

☆ フッ素応用の種類 ☆

1. 全身応用

経口的に摂取され消化管で吸収されたフッ素が、歯の形成期にエナメル質（歯冠の表面の組織）に取り込まれ、齲蝕（虫歯）抵抗性の高い歯が形成されます。

2. 局所応用

萌出後の歯面に直接塗布させる方法です。

フッ素（フッ化物）塗布・フッ素洗口・フッ素配合歯磨き剤が含まれます。

☆ フッ素応用の効果 ☆

1. 脱灰抑制作用(歯質強化)

エナメル質結晶内に取り込まれたフッ素によって虫歯菌に強い酸抵抗性を持ちます。

2. 再石灰化促進作用

フッ素を応用することで一度失われた歯の成分のリンやカルシウムの再沈着を促進します。

これを再石灰化といいます。

3. プラーク(歯垢)細菌の酸産性の抑制

フッ素がプラーク(歯垢=歯に付着している粘着性の汚れ)中に取り込まれると虫歯原因菌の働きを弱め酸が作られるのを抑えます。

このように日常にフッ素(フッ化物)を応用することで虫歯菌に対し抵抗性を高め予防につながります。

ご家庭ではフッ素入りの歯磨き剤の使用や洗口液でのうがいも取り入れてみましょう。

虫歯になってしまった歯は後でどんなにケアしても元には戻りません。

正しい歯磨き習慣とフッ素の応用で虫歯を予防しましょう。



ホームページです
ご覧ください

定期健診で
お待ちしております

メンテナンスの方は
1~2年毎に、
歯周病継続管理
の方は6ヶ月毎に
レントゲン診査をお
勧めします

久田和明
歯学博士
歯科理工学専攻
趣味はゴルフ

京極歯科

〒448-0844 刈谷市広小路3-33 (木・日・は休診です。祝は午後休診です。)

電話予約 ☎ 0566-21-0211

ネット予約 を検索してください。(24時間対応)

HP…<http://www.kyougoku-dental.com> <http://www.ireba-aichi.com> <http://www.kyougoku.jp/>